

平成29年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成30年 3月23日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	教授	氏名	山下 明美														
研究課題	産地の素材を活かしたカラーデザインとその応用研究																			
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担																
	代表	山下明美	造形デザイン・教授	色彩デザイン	調査・研究															
研究組織	分担者																			
研究実績の概要	<p>(1) 事例調査</p> <p>主に「手漉き和紙」を中心にその産地（中国地方、関西圏、北陸を中心に）を調査した。また、併せてこれらの関連商品が販売されている、デザインショップ、ミュージアムショップなどを視察し、参考資料、文献等を収集した。</p> <p>①調査・視察</p> <table border="0"> <tr> <td>出雲民藝館（島根）</td> <td>愛知県立博物館（名古屋）</td> </tr> <tr> <td>島根県立古代出雲歴史博物館（島根）</td> <td>備中和紙（岡山）</td> </tr> <tr> <td>石州和紙会館（島根）</td> <td>岡山県立博物館（岡山）</td> </tr> <tr> <td>富山市美術館（富山）</td> <td>倉敷民藝館（岡山）</td> </tr> <tr> <td>八尾和紙（富山）</td> <td>日本郷土玩具館</td> </tr> <tr> <td>D & Department TOYAMA（富山）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>印刷博物館、東京ミッドタウン、アキスギャラリー、KITTE 群言堂、パナソニック汐留ミュージアム、ggg(ギャラリー)、LIXIL ギャラリー、etc.(東京)</td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 調査の考察と提案</p> <p>2014年に日本の手漉き和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、世界でも日本の伝統工芸や民藝が見直されている一方で、いずれの産地でも伝統工芸や民藝は継承者不足や国内原料の確保が難しいなどの問題も抱えている。今回は西日本を中心とした、手漉き和紙の産地を調査したが、そこでも同様の課題を抱えていることが確かめられた。</p> <p>若手による新しいデザインの商品開発に力を入れている産地、伝統工芸品としての品質を保ち、あくまでも素材であることに重きをおく産地と様々な業態が見られた。</p> <p>幸い、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた岡山県では魚介類、果物や野菜などの産物だけでなく伝統産業を支える原料も比較的多く産出されているが、その担い手やデザイン開発、情報発信などでは課題も多い。</p> <p>今回の調査によって、高品質の手漉き和紙を現代生活の中に取り入れる取り組みには時間や資金などがかかるが、その担い手が途絶えないように、やはり行政や地域の支援も必要であることが確かめられた。和紙ではないが、2年前に訪れた山形県の米沢で素朴な相良人形を家族で細々と生産しているうちに、目利きの人たちの目に止まり、都市部で話題になり、今も現代的なインテリアに合う人形として人気を博している様子を見て、郷土から生まれ、継承されてきた貴重な民藝も職人の努力だけでなく、周りからの支援やプロデュースが重要であることを痛感した。</p>						出雲民藝館（島根）	愛知県立博物館（名古屋）	島根県立古代出雲歴史博物館（島根）	備中和紙（岡山）	石州和紙会館（島根）	岡山県立博物館（岡山）	富山市美術館（富山）	倉敷民藝館（岡山）	八尾和紙（富山）	日本郷土玩具館	D & Department TOYAMA（富山）		印刷博物館、東京ミッドタウン、アキスギャラリー、KITTE 群言堂、パナソニック汐留ミュージアム、ggg(ギャラリー)、LIXIL ギャラリー、etc.(東京)	
出雲民藝館（島根）	愛知県立博物館（名古屋）																			
島根県立古代出雲歴史博物館（島根）	備中和紙（岡山）																			
石州和紙会館（島根）	岡山県立博物館（岡山）																			
富山市美術館（富山）	倉敷民藝館（岡山）																			
八尾和紙（富山）	日本郷土玩具館																			
D & Department TOYAMA（富山）																				
印刷博物館、東京ミッドタウン、アキスギャラリー、KITTE 群言堂、パナソニック汐留ミュージアム、ggg(ギャラリー)、LIXIL ギャラリー、etc.(東京)																				

※ 次ページに続く

本学のデザイン学部も共同研究などで教員が学生と地域のものづくりに関わる機会はよくあるが、民藝そのものに関わる機会はあまり多くない。デザイン学部の特性を活かした関わり方がないか模索していく中で、演習で取り組んでいる現実のプロジェクトベースのワークショップに取り入れた。本物の素材に触れることは今後のデザイン活動にとっても重要であり、将来、この中から新たな素材開発や商品企画、そのプロデュースに関わる人材が生まれる可能性もある。材料の入手や価格の問題など課題も多くあるが、今後も和紙のみならず、地域の素材に触れる機会を多く持ちたい。

色彩計画演習の中でとり入れたこともあり、これらの成果は3月大阪電気通信大学で開催された色彩学会関西支部大会のオープンカラーオープンカラーにおいて、展示と研究発表を行った。



手漉き和紙に家紋とCamoパターンをプリントしたうちわ



岡山の海の色とパターンを使った和紙の缶バッチ提案

研究実績
の概要



色彩計画演習での制作風景



合評風景、良いと思った作品に付箋を貼る



岡山の海の色とパターンを使った備中和紙のペーパーウェイト



色彩学会オープンカラーラボでの発表

成果資料目録

なし